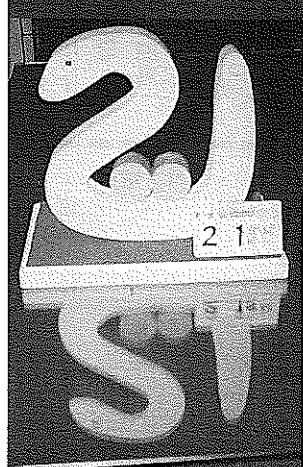


林業とくしま



21世紀の幕開け

No. 255
2001.1

新年のあいさつ

徳島県知事

圓藤寿穂

皆さん、明けましておめでとうございます。

希望に満ちた二〇〇一年の年頭に当たり、皆様方のご健康とご多幸を心からお慶び申し上げます。いよいよ、二十一世紀の扉が開かされました。つい最近まで、まだ見ぬ輝かしい未来をイメージするに過ぎなかつた新世紀に、私たちは第一歩を踏み出したわけであります。

「成長の二十世紀」から「調和の二十一世紀」へと、時代は大きな転換期を迎え、変革への流れは一段と激しさを増しております。

我が国では、長引く景気の低迷や、急速に進む少子・高齢化、世界中を包み込んでいる「IT革命」といった時代のうねりの中、これまでの社会経済システムが大きく変貌を遂げつづります。

森林・林業・木材産業につきましても、林業基本法の見直しを含め

た新たな林政の展開方向について検討が進められております。

一方、本県を取り巻く状況に目向けてみると、本四3ルートの開通やエックスマイルウェイの完成によつて、大交流・大競争時代の幕開けを迎えるとともに、地方分権型社会という新たな枠組みが形作られ、地方の真価が改めて問われようとしております。

このような中、個性豊かで活力あふれる徳島を築いていくために、は、すべての県民、すべての地域との「協働」の視点に立ち、共に手を携え、英知と行動を結集しながら、新たな「地方創造の時代」を切り拓いていかなければなりません。

その取り組みのひとつとして、四国靈場八十八ヶ所を巡る遍路道を活用し、人々とのふれあいの中で歴史を訪ね歩くみちをつくる「四国いやしのみちづくり事業」をスタートさせたほか、ふるさとの道路や川を自分たちの手できれいにしようとする活動「アド・ブト・プログラム」も、県下各地で大きな広がりを見せております。

また、今春には、四国横断自動車道が板野インターチェンジから津

田東インター・エンジまでの区間で供用開始される予定であり、さらに、自然の中で科学を体験できる大型公園「あすたむらんど徳島」

や、県西部における滞在交流拠点・野外交流の郷につきましても、今夏オープンに向けて鋭意整備を進めているところであります。

一方、森林・林業・木材産業につきましても、間伐を含めた森林の適切な管理や木材の需要拡大・担い手の養成等、情勢の変化を的確にとらえながら、各種施策の推進を図つてゐるところであります。

今、私たちは、歴史の大きな節目に立つてゐます。激しく揺れ動く不透明なこの時代に、私は、八十三万県民の夢を映し出す未来図を描き、徳島の二十一世紀を感じ動かされたものとするために、変革に立ち向かう勇気と氣概を持つ挑戦してまいる決意でございます。

どうか、県民の皆様方には、なお一層のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして、輝かしい年となりますよう、心からお祈りいたします。

もくじ (林業とくしま 255号)

やまびこ(新年のあいさつ).....	2	技術情報(菌根性きのこの人工栽培).....	10
林政の窓(新たな林政の展開方向).....	4	阿波だぬき(第九).....	12
特 集(21世紀に羽ばたけ).....	6	東西南北.....	13
林研とみんなの情報交流コーナー.....	8	広 告.....	15

やまびこ

「持続可能な森林経営」としての期待

徳島県林業改良普及協会

会長
山脇隆吉



二十一世紀の幕開けにあたり

徳島県林業研究グループ連絡協議会

谷奧歲信



新年明けましておめでとうござります。おしゃれな年になりますように。そつ

会員皆様におかれましては、
がなく新しい世紀を迎えたこと
と、お慶び申し上げます。
さて、国産材の時代が来るといわ
れて久しく時が流れる内に、数年に
なりますが「持続可能な森林経営」
という文言が使われるようになります。
した。

そうしてそれを受け入れる森林側としても、交流により都会人の知恵をもらうて新しい山村社会を構築しようと努力するように変わり始めたところです。

新年明けましておめでとうございます。

分の負担をすべきであるとの結果が
出ているそうであります。

側としても、交流により都会人の知恵をもつて新しい山村社会を構築しようとする努力するようになり始めたところです。

このようしたことから、国においても、新たな基本政策として、「持続可能な森林経営」を目的に推進することが、林政改革大綱に盛り込まれたとこうです。

多くの林業関係者の皆様方の御努力により、歴史的にも特筆される一千万haの人工林を造成してまいりました。これは、先の大戦で焼土と化した国土の復興と、緑化の推進を一体化した国策として取り組まわれた二十世紀後半五十年をかけてなり、謹んでご挨拶申しあげます。

今後 我が国林業の最重要課題は、除伐間伐の強力な推進であります。現在人工林の多くは、大切な育林作業が途中放棄され、林地も植え付けられた樹木も悲鳴を上げております。

循環利用が可能となるように管理することで、生態系を保全しつつ資源の循環利用が可能となるように管理された森林ということでしょう。木材生産優先ではなく、環境資源としての公益性とのバランスを考えて経営管理する時代になってきたということです。

このためには、本協会としても協会の目的に基づき、普及指導職員と共に、森林・林業の活性化を図るため「持続可能な森林経営」を積極的に推進したいと考えていますので、会員皆様のご理解を賜り、これまで以上のご指導ご支援をお願い申し上げます。

終わりに、会員皆様の「多幸」と、
健勝を祈念いたしまして、「十一世
紀幕開けのご挨拶」といたします。

こうした中で関係者の皆様方の努力の積み重ねによりまして、先の総理府の世論調査では、六割を越える都市住民の方々が、下流域に住む住民が森林の適切な維持管理に応

りましたか県内各地で御活躍されております、徳島県林業グループの益々の発展と会員の皆様方の御健勝を御祈念致しまして御挨拶といたします。

「新たな林政の展開方向」

林政審議会報告の概要



国の林政審議会は、昨年七月から六回にわたる議論を重ね、十月十一日に「新たな林政の展開方向」を取りまとめ、農林水産大臣に報告しました。林野庁としては、今回の林政審議会からのご意見を踏え、政策大綱等を取りまとめるとともに、新たな基本法案等の準備が進められています。

以下、林政審議会報告概要の全文を紹介します。

一、はじめに

森林・林業・木材産業に関する新たな基本政策の構築に資するよう、林政の具体的な展開方向について検討し、とりまとめ。今後早急に施策を具体化することを要望。特に、林業基本法においては速やかにこれを見直るとともに、関係する政策全般を国民の視点に立って再構築すべき。

二、情勢の変化を踏まえた新たな林政の確立

- (1) 「これまでの林政の考え方

これまでの林政は、旺盛な木材需要を背景に、林業総生産を増大させることを目標として多岐にわたる施策を実施。森林の公益的機能は副次的に発揮されるという認識。

(2) 森林・林業・木材をめぐる情勢の変化

森林に対する国民の要請は、国土の保全、水資源のかん養等はもとより、保健・文化・教育的利用、地球温暖化の防止等にまで多様化・高度化。

木材価格の低迷、林業生産「ストップ」の増大等により林業の採算性が悪化し、人工林を中心に管理が適正に行われない森林が増加するおそれ。
建築物での製材材質に対する要求は、品質・性能が明確な資材に大きく変化。このよくな中で国産材のシェアーは低下の一途。

林業就業者の約八割が居住する山村地域は、人口の減少、高齢化の進行等により、地域の活力が低下しこのままでは林業生産活動の継続が困

難になるばかりでなく、森林の管理も十分に行わなくなるおそれ。

(3) 新たな林政への転換の必要性

・政策の主たる目的を木材生産を主体としたものから将来にわたり森林の多様な機能を持続的に発揮できる森林整備を目指すものに転換。

・森林所有者を中心とした従来の林業経営の考え方を改め、森林所有者がどうかにかかわらず林業経営意欲を有する者が森林所有者からの受託等により森林の管理や経営を担当。

・木材産業を林業と一緒にして国産材の利用推進に重要な役割を果たす産業であると位置付け、売れる国産材づくりに向けた取組を促進。

・森林の管理や林業の振興には山村の活性化が不可欠であるという考え方方に立つて、農業政策や関係省庁の政策と連携しながら山村の振興を推進。

・健全な森林の育成に不可欠な間伐等の施業を確実に実施するとともに、従来の皆伐・新植を主体とする伐一的な施業を見直し、多様な施業を導入。

・経営意欲を失った森林所有者の事業・経営を安定的・効率的に施業経営を行える者に集約化。この場合、市町村長によるあつせん等地方公共団体が関与する仕組みを設ける必要。

・身近な自然として生活環境の保全、森林とのふれあいの場を提供する里山林等の保全・整備・利用を推進。

(2) 森林を適正に管理するためのシステムの整備

三、新たな林政の具体的方向
(1) 多様な機能の発揮のための森林の適切な管理の推進
・多様な機能の持続的発揮を図るとともに、森林資源の持続的利用を推進する観点から森林計画制度を見直し。最も重視すべき機能に応じて森林をゾーニングし、ゾーン毎に最もふさわしい森林の整備を推進。

考え方を表象する目標の設定を検討。

三、新たな林政の具体的方向

木材自給率の設定については、新たな林政の指針としては必ずしも適当とは言えないが、数値目標を設定することは重要。このため、森林の適正な管理の観点から、森林・林業の実体も踏

・森林所有者には森林を適正に管

林政の窓

理する債務があることを明確にするとともに、保育・間伐等が必要な森林や伐採跡地の放置等により公益上の支障が生じるおそれがある場合に対応できるよう、勧告・是正措置等を充実強化。

- ・国民的な理解と支援による森林整備を推進するため、ボランティア活動等を支援するとともに、環境税や地方自治体における法定外目的税に関する検討状況等も踏まえつつ、社会的コスト負担のあり方を検討。
- (3) 森林の管理と森林資源の持続的利用を担う林業・木材産業の振興
 - ・継続的な林業生産活動を通じて地域全体での森林の適切な管理と森林資源の持続的利用の推進を図るため、林家・森林組合・素材生産業者等の中から、安定的・効率的に施業経営を実施できる者を育成。また、林業税制の改善についても検討。
 - 森林組合については、地域による森林管理を責任をもつて行う主体として位置づけるなど、森林組合のあり方を検討。
 - ・多様な就業ルートを通じた幅広い人材の確保を図ることとともに、今後の森林整備に必要な知識・技術を備えた人材を育成し定着させることが重要。

- ・育林・素材生産段階におけるコストを削減し、地域の森林の整備を効率的に行うため、林道・作業道等の整備、機械化を推進。
- ・徳用林産物については、良質で安全部門の供給、需要の拡大、低コスト安定供給体制の整備及び新商品・新技術の開発を推進。
- ・木材産業については、乾燥剤供給体制の早期整備、高次加工化等を推進。また、加工コストの低減、新製品の開発・生産等に向けて経営革新を進めるとともに、整備廃棄等を促進することを通じて、木材産業の再編整備を推進。
- ・住宅分野や公共部門等における地域材利用を強力に推進。また、木材のガス化、液化等によるバイオマスエネルギーとしての利用等木質資源の多角的利用のための技術開発と普及を推進。

- ・山村地域の活性化を図るため、就業機会の創設・確保、定住条件の整備、都市と山村の交流を促進。
- (6) 山村地域の活性化
 - ・森林の適切な管理を通じ森林の多様な機能の発揮を図る観点から、地域が行う森林の管理行為に対する施策など、森林管理のための地域による取組を推進するための措置の内容について検討。
- (5) 国有林野事業の抜本的改革の推進
 - ・国有林を名実ともに「国民の森林」とする、という基本的な考え方方に即して、引き続き抜本的改革を積極的に推進。
 - ・国と地方の役割分担を明確にする必要。

- ・国際規律又は国際的なルールの形成に当たっては、国際規律等の動向を踏まえ、その整合性に留意しつつ、国内政策を立案。
- (2) 関係者の取組
 - ・全般的な政策の基本方向及び関係者が取り組むべき具体的な課題を明らかにするほか、一定期間ごとに取組の進歩状況を検証。
- (3) 政策のプログラム化と定期的な見直し
 - ・政策課題について、今後概ね三年-five年間の政策を具体化するためのプログラムを策定・公表。また、プログラムに基づき、個別の政策について、費用対効果等の評価を行いつつ着実に実施。
 - ・五年程度ごとに総点検と評価を行い、不斷に検証評価。
- (4) 公的関与による森林の適正な管理
 - ・財政措置について、効率的・重点的に運用。

林業振興課 企画調整係

二十一世紀に羽ばたけ

「若さと美貌」

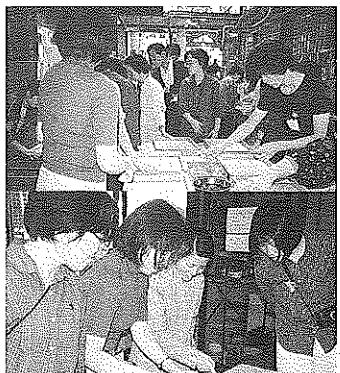
いよいよ二十一世紀がスタートいたしました。

二十一世紀は、明るく、活力のあるものにしたいものです。

そこで、今回は、農山村地域の担い手として頑張っている女性グループと今後、担い手として期待されます高校生の活動について紹介します。

女性林業グループ 交流研修会

県内の各地で、女性としての感性を最大限に發揮し、ユニークな活動を展開している女性グループの皆さんが、昨年の十月二十四日から二十五日の二日間、山川町と美郷村において交流研修会を開催しました。



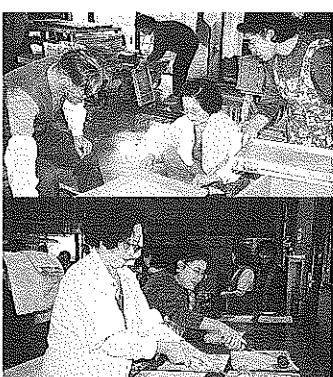
一日目は、阿波和紙伝統産業会館で手漉き和紙の体験を通じて新たな感性を磨き、その後、梅のいろいろな加工について学習し、夜は、自己紹介の後、各グループの活動紹介とともに活発でユニークな意見交換会がおこなわれ、お互いの連携強化と交流が深められました。

二日目は、「The山師」の指導のもと、木工に取り組み、プランターと木の鉢作りを体験しました。

木工用工具を使っての削り取りや穴あけ等始めての人には難しかったと

思いますが、無事にケガもなくオリジナリティな作品が立派に製作できました。

この二日間は、体験を中心として



実施されました。新世紀、女性グループの更なる発展と大きな活躍を期待します。



われます。
新世紀、女性グループの更なる発展と大きな活躍を期待します。

高校生が 高性能林業機械操作を体験

県が、森林経営インターンシップ促進事業の一環として、高校生を対象とした高性能林業機械等の操作体験学習会を開催しました。

この事業は、体験学習を通じて林业に関する理解と認識を高めるとともに、林业への就業促進を図る目的で実施されたものです。

今回は、昨年の十一月十七日に県立三好高校生十七名を、また、同月二十九日には那賀高校平谷分校生十五名を対象に実施されましたのでその概要を紹介します。

二 好高校生の体験

当日、朝早くは雨が降っていましたが、生徒達が学校を出発する頃は雨も上がり、予定どおり実施することとなりました。

現場は、山城町栗山の奥地で、谷藤陽氏（指導林家）の山林をお借りして実施しました。

また、講師は、若い社員が働いている「株式会社山城もくもく」にお願いしました。



那賀高校平谷分校生の体験

この日の現場は、上那賀町海川の奥地で、木頭森林組合の伐採現場をお借りして実施しました。

講師は、事業を受けている「公文林業」の社員の皆様にお願いしました。社員の皆様は、十、二十代の本当に若く、生徒と変わらない年齢で、楽しく、厳しく、和気会々の内に指導をして頂きました。

体験学習としては、三好高校とほ

体験学習の日程としては

一 開講式（午前十時～）

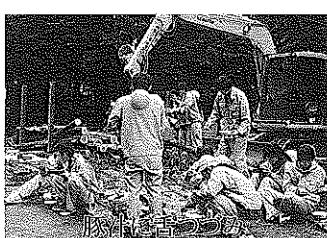
二 高性能林業機械について（講義）

三 タワーヤード、プロセッサ、グラップルの操作体験学習

四 閉講式（午後三時）

で実施され、三班に別れて全員の生徒が体験をすることができた。

体験は、伐採された原木を生徒がタワーヤードを操作して搬出、搬出された原木を生徒がプロセッサを作して、枝払い・玉切りを実施、また、グラップルを操作した玉切り原木の整理及び移動について体験した。



思ひぬご馳走に、生徒達も喜んでお変わりをしていました。
この思い出は、一生忘れられないでしょう。



ぼ同じ内容で実施されました。タワーヤードがなかつたため、チエノソウの取り扱いの方の講習を加えて、三班に分かれて実施しました。

体験学習の日程

一 開講式（午前十時三十分～）

二 高性能林業機械について（講義）

三 プロセッサ、グラップルの操作体験及びチエノソウの取り扱い実技体験

四 閉講式（午後三時）

7

林研とみんなの情報交流コーナー

「かみやま林業振興会」 視察報告



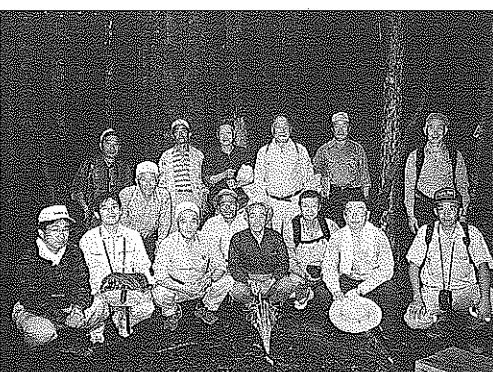
去る十月六日に高知県の天然スギの宝庫、魚梁瀬千本山へ視察研修会を行いました。現在生育している魚梁瀬天然スギは、樹齢一〇〇年から三〇〇年、平均二〇〇年の樹齢になります。「一目千本鉢巻き落とし」と形容される魚梁瀬天然スギの代表的林分の大きい物では胸高直径二m、樹高五〇mにもなるそうです。魚梁瀬天然スギには、①太くて節のない木材が得られる。②特有の香りがある。③高級銘木として珍重される淡紅色を有する。④笛塗、中塗、波塗など変化に富んだ杔目が見られる。等の特徴があり、これらの特徴を生かして、天井板、造作材、貼天井、木工芸品などに利用されているそうです。

魚梁瀬スギの生育している千本山保護林は標高五〇〇～一四〇〇mを重ねると立派で、こうしたこと

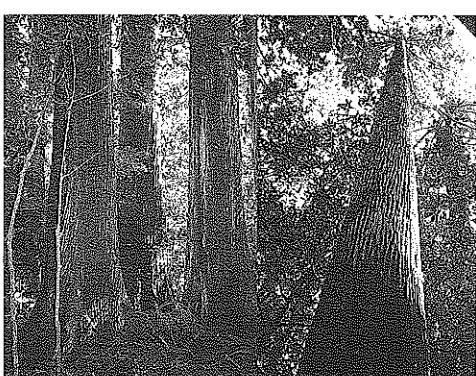
も払拭してしまっただけの神々しさで、参加した会員も感心することしきりでした。魚梁瀬スギに神山スギの未来を重ねて希望ある視察研修会となりました。

の範囲にあり、土壤もよく、降水量も年平均五〇〇〇mm前後と恵まれた自然条件がととのつており、ここで生育している天然スギは、林例一〇〇～三〇〇年、直径一m以上のものが大半を占め、大きい物で直径二m、樹高五〇mになります。

会員のほとんどは六〇歳以上ですが、普段から山で作業をしている元気な方ばかりであることと魚梁瀬スギを早く見たいという気持ちから片道一時間以上の山道も難なく登りきり、枝もなく真っ直ぐに伸びている天然スギを見ながら口々に驚きと感動の言葉を発しながら上を見つめている姿はとても印象的でした。



「三野林友会」の 視察報告



農林水産青年の
料理教室

平成十二年十一月十一日、海部郡内の農林水産業に従事している青年達が、自分たちがつくっている産物を持ち寄って料理教室を行いました。農業者からは、特殊栽培米や有機野菜、林業者からヒノキのまな板、備長炭、漁業者からは新鮮な魚介類が持てこられ、それぞれが各産物について説明した後、料理に移りました。料理については、主に魚の裁き方について、漁業関係者が手本を示しました。

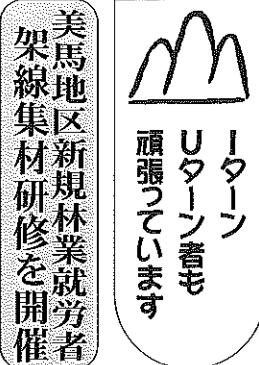
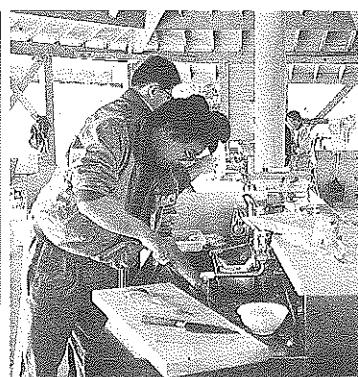
料理をつくった後は、試食しながら各産業の現状などについて意見交換を行いました。

どの産業も生産物の価格が安く困っているとのことでした。その最大の原因は、海外の安い農林水産物が多く輸入されていることにあるようですが、この現状を開拓するには、地域の



林研とみんなの情報交流コーナー

農林水産関係者が連携し、知恵を出し合って取り組んでいかなければならぬという結論になりました。



**美馬地区新規林业就労者
架線集材研修を開催**

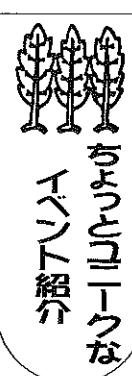
平成十二年十月二十四日、六吹町古宮の網付山北斜面において自走式搬器(スカイキャリー)及びイカ型自動繫留搬器による間伐材の集材研修を実施しました。美馬地区の明日を担うUターン・リターンによる新規就労者を中心とする十一名が参加し、高岡索道工機社長 高岡幸夫氏が講師で、集材作業の手順や

労働安全について指導がありました。

特にイカ型自動繫留搬器は、主索と作業索(荷上げ索)だけの簡易な索張りで荷の横取りから搬送まで連続動作で高能率な作業が可能であり、搬出間伐に適した搬器です。

二班に分かれ午前午後の交代で二種類の搬器を操作し、省力的、効率的な搬出技術を修得してもらいました。

今年度から実施される特定間伐において、この技術が活用される事を期待します。ちなみに、この日は、一三七㎥の間伐材が搬出されました。



平成十二年十一月十九日、上那賀町で産業文化祭が開催され芸能イベントを始め、地域の特産品や文化作品の展示等に多くの町民が参加

しにぎわいました。

なかでも、木頭森林組合の職員が出品した木の実、枝などを使つた作品「となりのトトロ」やアリなどの昆虫は子供達の人気を集めました。子供達も、用意した材料を使い作品作りに取り組み、大人が考えつかないような独創的な作品ができあがり、無限の可能性を感じられました。

また、那賀高校平谷分校生が制作したスギのテーブルや椅子、ス

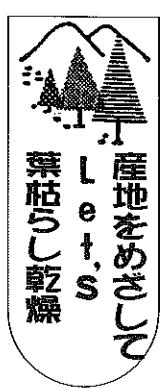
ギの葉の品され、スギの町ならではの文化祭でした。



葉枯らし乾燥に取り組んでいる中山修一氏からは、葉枯らしの方法及び採材方法の指導、又美馬郡木材協同組合石田主任からは葉枯らし材が一般材より一、〇〇〇円以上の高値で落札されている報告がありました。

住宅の品確法の施行により、木材乾燥は益々注目されています。

今、美馬郡では、葉枯らし乾燥材を中心とした产地化が進められています。



菌根性きのこの人工栽培

徳島県林業総合技術センター

緑化・特産科長 阿部正範

マツタケやホンシメジ、ショウロなどの、「菌根性きのこと」と呼ばれる仲間で、生きた樹木の根から栄養分を得て生活するきのこです。そのため、枯木から栄養分を吸収して育つ「腐生性きのこと」呼ばれるシイタケやヒラタケ、エノキタケと異なり人工栽培が不可能なきのことと言われています。

スープーや八百屋などで「シメジ」の名称で売られているきのこも、実際は「菌根性きのこと」のホンシメジではなく人工栽培で得られた「腐生性きのこと」のブナシメジやヒラタケであります。

マツタケ、ホンシメジの人工栽培については、過去いろいろな機関で研究が行われてきましたが、今までのところ、きのこに適した林内の環境設備が最も実用的でかつ効果的であるとされてきました。ところが近

年、食用の「菌根性きのこと」の代表であるホンシメジの人工栽培が、滋賀県、奈良県、京都府で成功したという報告がありました。そこで、今回は、その中から、一例ほど紹介したいと思います。

一 ホンシメジのビン栽培

この方法は、滋賀県森林センターの太田 明氏が開発した栽培法です。

基本的にはヒラタケやブナシメジなどの栽培きのこに準じています。栽培工程は図-1のとおりです。以下にそれぞれの工程のポイントを概説します。

ず一、五で混合したものを培地として用いる。培地の含水率は、手で握ったとき少し水分が培地から出る程度とする。

② 栽培ビン||ナメコ栽培に用いられる広口のビンがよい。培地の詰量は、ビン容量の一／二／二／三。接種孔を確保するため直径約1cmの棒を立てる。

① 培地の作成||精麦した押麦1kgに対して添加液(表-1)を1ℓ加えて一夜放置する。その後、体積比で押麦1に対して広葉樹オガく

必要。
④ 培養||約四十日でビン全体に菌糸が蔓延する。ホンシメジは、培地上面が何かで覆われていないと、きのが発生しないので覆土という処理を菌糸蔓延後おこなう。覆土処理は、ピートモス二十ℓに炭酸カルシウム20g、水1ℓで混合し、pHを5.0～5.4とした被覆材で培地上面を二～三cm覆い、ふたをして十日間ほど追培养を行う。

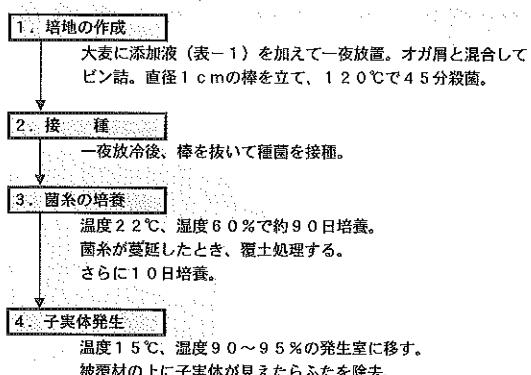


図-1 ホンシメジの栽培工程

表-1 添加液の組成

物質名	濃度(1ℓ当たり)
クエン酸	0.5g
リン酸1カリウム	0.1g
硫酸マグネシウム	0.2g
アセチルアセトン	5μl
塩化第2鉄	50mg
硫酸マンガン	0.03mg
硫酸銅	1.5mg
硫酸コバルト	0.3mg
硫酸ニッケル	0.1mg
硫酸亜鉛	1.0mg

技術情報報

⑤ 発生操作Ⅱ 培養完了後、発生室へ移す。発生処理後、十五～三十日で小さなきのこが現れるので、その時ふたを取り除く。

その後七～十日すると収穫できる。

接種から収穫までの所要日数は、

約八十日です。実用化のためには、菌糸の生長が早いのが揃つて発生する、雑菌に強い、など品種の選抜が課題とされています。なお、この栽培方法は滋賀県の特許ですが、一県だけで独占するべきではないとの考え方から全国で栽培しても良いことになっています。

二 マツ取り木苗を利用したホンシメジの人工栽培
この方法は、奈良県森林技術センターの河合 昌孝氏が考案したものです。

ホンシメジはアカマツやコナラなどの根に菌根を形成して栄養分を吸収します。ですから、ホンシメジ菌に感染して菌根を形成したマツ苗を林地に植栽すれば、ホンシメジの発生する林が造成できるわけです。ところが、アカマツなどはホンシメジ菌以外の様々な菌とも菌根を形成し

やすく、ホンシメジ菌だけの菌根を形成した苗を作るのは至難の業とされてきました。ところが、園芸分野で行われている空中取り木法を用いることでホンシメジ菌だけの菌根が形成されたアカマツ苗木の生産に成功しました。

アカマツ取り木苗を用いた林地接種法は次のとおりです。

① 林地に接種のための穴を掘く。
② 出てきたマツの根の付近に取り木苗と培養したホンシメジ菌を置く。

③ 挖つた土で埋め戻す。

このようにして林地接種を行った

場所からは、接種後早いものでは八ヶ月でホンシメジの発生が確認されています。この「取り木苗を利用した栽培法」は、簡便で、実用化は比較的容易であると思われます。

この栽培法については、奈良県が特許を申請中です。そのため、この方法を用いて栽培する場合は、奈良県の了承が必要となります。

以上、今まで人工栽培が不可能と言わってきたホンシメジの栽培法について二例紹介しました。林業総

合技術センターでもビン栽培について、当センター保存のホンシメジ二菌株をもちいて、予備的に栽培試験を実施しています。しかし、二

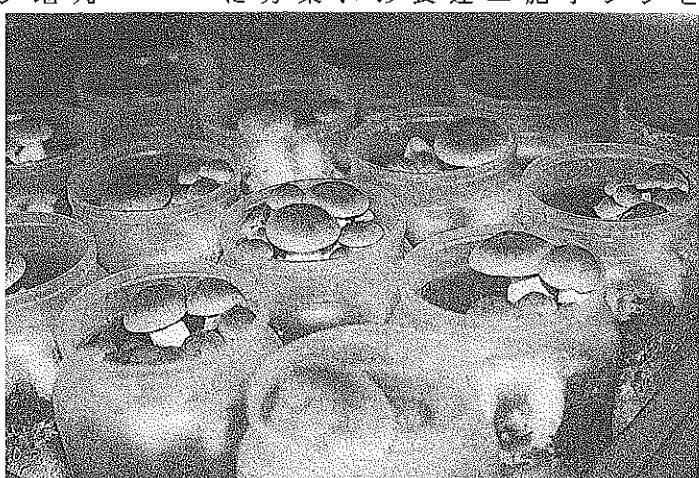
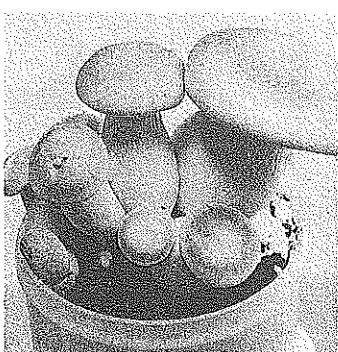
菌株とも菌糸生長が遅く栽培に不適で、生長の早いホンシメジ菌の収集が必要と感じています。ホンシメジの収集や栽培に興味のある方は、一度当センターに問い合わせ下さい。

参考文献

太田 明、一九九八、菌根菌栽培－林地から施設まで－、ホンシメジの施設栽培、日菌報

三九Ⅱ一二一一二四
太田 明、一九九九、菌根性き
のこの栽培技術の開発とその普及、
林業技術 No六八八Ⅱ三〇一三一

河合 昌孝、一九九九、マツ取り木苗を利用したホンシメジ人工栽培、菌草 四五(一〇)Ⅱ三八一



阿波だぬき

「第九」

川島農林事務所

林務課長 川崎和文

二十世紀最後の十二月に「阿波だぬき」の原稿依頼を受けたとき、巷には魅惑的なクリスマスメロディーに溢れていた。

やがてこのメロディーが年末に近づくにつれ「やつかいな」ベートーベンの交響曲第九番にとってかわる。「第九」はなぜ年末に演奏するのか?日本では今、年末の風物詩となっている。

西欧では特別なものであつて大きなイベント、歴史の変わり目等に演奏されている。

たとえば第二次世界大戦後、大指挥者がドイツに復帰した時、またベルリンの壁が崩壊の時とかである。

ベートーベン以降の作曲家にとって交響曲の「九」が不吉な数字になつている。シューベルトも最後が九番「グレート」、ドボルザークも九番「新世界」、ブルックナーも九番にとりかかったが未完に終わっている。マーラーは「九」をおそれ九番目に番号をつけず「大地

の歌」と表題曲にしたが、十番目を作ることなく没している。ブームスなど数多くの著名な作曲家は九番以下である。

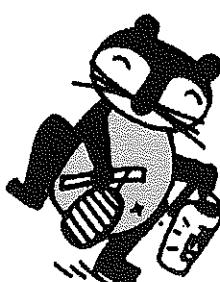
「九」 자체、不吉な訳ではないだろうが、作曲家にとって九曲も交響曲を作るのは生涯の大仕事であつただろう。こういう意味で外国では大きな転換期に「第九」の演奏会を開くといふことも考えられている。

日本では、アマチャヤ合唱団が非常に盛んであり、一年間の練習の成果として年末に行うことが多い。この曲が合唱付きで数多くの人が参加でき「歌うアホーに、聞くアホー、同じアホなら……」と阿波踊りの発想もこの曲の演奏回数を増す要因となつていて思われている。

この曲の日本での初演奏は鳴門市で行われたことは有名である。第一次大戦後、ドイツ軍捕虜が板東(現鳴門市)に収容された時に、地元の人達と

の交流の中で大正七年六月に演奏会が開かれた。最近では一層盛んになり毎年アマチャヤ音楽家による第九演奏会が行われている。

世紀末に、この苦惱に満ちた「第九」を聴き、一年また、二十世紀の苦しみ、悩みを忘れ、二十一世紀の春には軽快で心安らぐバロック音楽、モーツアルトを聞き気分一新し、新世紀を向かえたい。



待されます。

徳島農林事務所 佐々木 賴考

人分としました。

無料と言つ」ともあり、高齢者、子供連れを中心に参加者が多く、予定の六十人分を用意したほど本は午前中に無くなってしまいました。

また、地元林産物の販売も何かほしいなど考えていたのですが、最近炭焼窯を作った林研グループ「阿讚林業会」が竹炭の出品を快く引き受けてくれました。

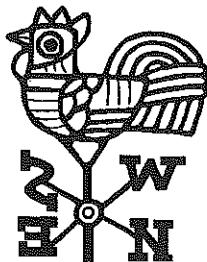
午前中は場所が悪かつたせいか売れ行きがさっぱりでしたが、午後から婦人会テント近くへ移動したところ、健康への関心の高まりから「竹炭」を使っている人も多くなり売れ出し、来年も是非と歓迎を受けました。

募集範囲も今回讀岐への三頭越えのウォーキングを行うことから香川県琴南町にも参加以来を行い、その結果夏場の暑い時期にもかかわらず旧街道をウォーキングするという「ボランティア募集しました。

下刈り中には昨年植栽したポット苗と竹串が上手に結ばれていないところから風に吹かれこけているものが多々見つかたり、作業中にマムシを発見し捕まえた方もおりましたがケガもなく無事に下刈り作業は終了しました。

昼食後讀岐への三頭越えをウォーキングをし、コース上には、100mごとに石仏があり、阿波と讃岐の境には、鳥居があつてその鳥居には、讃岐側には三頭大権現、阿波側には金比羅大権現と扁額には刻まれており

東 南 西 北



島徳

G P S 研修会 勝浦町で開催

十月十五日、勝浦町において、G P S パスファインダーの現地説明会が開催されました。

G P S パスファインダーとは人工衛星を使った位置測定システムで、G P S 受信機とビーコン受信機を一体化し、データー収集ソフトが付属し、リアルタイムのマッピングと G I S データの収集が行えます。

当日は徳島農林事務所館内の森林組合、県森連、森林土木協会等多くの参加があり、期待の大きさがうかがえました。

このシステムを利用すれば、一名でも測量が可能となり、測量業務の効率化が図られます。

今後の測量業務の主役になると期

川島

「川島まつり」 への参加

川島林業振興協議会・川島町から「川島まつり」でのイベント参加依頼があり、林務課としては一般参加者がなにか林業への興味を持つものにしたいと考え、一昨年は「炭焼実験」、昨年は「木工教室」ということで「シャイタケの植菌作業」を実施しました。

川島農林事務所 川村 英人

内から、菌はわざわざ徳島市から仕入れました。本数は三十本購入したのですがあまり大きいと持ち運びに困難なので半分の大きさにし、六十



二頭ボランティア の開催について

八月二十日に美馬郡美馬町野田の井で昨年植栽ボランティアで植えた場所(面積1.5ha)で下刈りボランティアと併せて讀岐へ抜ける三頭越えの旧街道をウォーキングするという「ボランティア募集しました。



の井で昨年植栽ボランティアで植えた場所(面積1.5ha)で下刈りボランティアと併せて讀岐へ抜ける三頭越えの旧街道をウォーキングするという「ボランティア募集しました。

八月二十日に美馬郡美馬町野田の井で昨年植栽ボランティアで植えた場所(面積1.5ha)で下刈りボランティアと併せて讀岐へ抜ける三頭越えの旧街道をウォーキングするという「ボランティア募集しました。

当時は、人の往来があつたことが偲ばれます。

その場所で歴史の勉強も行つた後

讀岐への散策を行いました。

また周囲の景色は溪流沿いの広葉樹林を楽しむバスで九十分程度で香川県琴南町へ着きました。

脇町農林事務所 野々瀬 佳嗣



池田

採算間伐講習会 池田町で開催

平成十二年十月十九日、池田町松尾の天眞林業(株)所有山林において、列状間伐による採算間伐講習会を開催しました。

参加者は、池田町内の林家等十五名で、講師は林務課の高橋と蟬

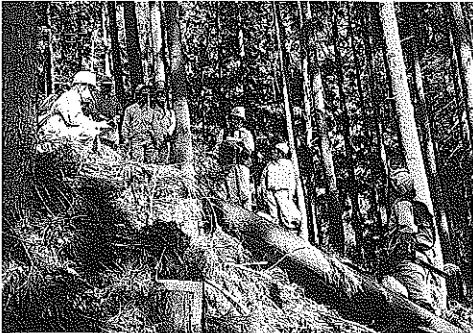
塚、現場講師は池田町内森林組合の中川主任にお願いしました。

現場は、松尾川を野猿で渡つた

傾斜が三十五度以上の厳しい場所で、杉三十五年生を列状間伐し、架線で全幹集材、プロセッサで造材を行つていました。搬出経費は一万六千円/m³程度と、列状間伐の効果でこの程度で収まるということでした。

参加者は、列状間伐と特定間伐を組み合わせれば赤字にならないことを理解してくれたので、今後の間伐推進に大いに期待が出来るものとなりました。

池田農林事務所 高橋 孝次



池田

きのこ研修会で学ぶ

木についての知識だけでなく、幅広く森林に関する知識を習得し、森林林業の普及活動に役立てるこ

とを目的として各農林事務所AG、町職員などを対象に実施している

キノコ研修会も今年で四回目を迎

えました。

今年は自生しているキノコの採取、鑑定に加えて、林業総合技



タの協力を得て、ホンシメジの発生調査も開始し、今後追跡調査をしていく予定です。採取したキノコは鑑定をし、毒キノコかどうか、どのような場所にどのキノコが生えるかなど検討し、互いに知識を深めあい、普及活動に役立てたいと考えています。

池田農林事務所 高橋 孝次

池田

森林教室開催 「竹の話とネイチャーゲーム」

樹木や森林への興味、また、阿南市の特産物である竹を知つてもらうことを目的として、昨年十一月二十四日、阿南市新野東小学校で森林教室を行いました。

小学校の裏山(一升ヶ森)を登り

ながら、手入れの行き届いた竹林と荒れた竹林の違い、タケノコの見つけ方、竹炭の焼き方など身近にあって知らないことが多い竹について説明しました。それから、森林の働きについて話をした後、最後にネイチャーゲームを行い、盛り上がりながら下山しました。

これからも子供たちが自然に目を向けてくれることを願つて、またひと味違った森林教室を提供したいと考えています。

阿南農林事務所

井坂 利章

